

エルサルバドル (FUNDIPRO) からの報告

みつばち保育所に通う 70 人の子どもたちに文具をプレゼントしました。子どもたちの親は、その日暮らしの生活をする人がほとんどで、家族を十分に支えるだけの経済力がなく、日用品や文具を買いそろえることは困難な状況です。

今回のイベントは、みつばち保育所で働くスタッフにとって大変貴重な機会になりました。今回のプレゼントは、大学の同級生や職場の同僚（エルサルバドルの学生の多くは、学業と仕事を両立させながら生活しています）に物品の提供を呼びかけ、多くの方からたくさんの未使用の文具をいただきました。保育所スタッフは物品の提供と包装に協力と呼びかけ、一緒に子どもたちのためのプレゼントを準備しました。

その結果、子ども一人ひとりの名前と学年を考慮した文具を渡すことができました。また、これらの文具は、毎週日曜日に出かける街の市場にいる子どもたちにもプレゼントしました。

1 月 20 日（土）

FUNDIPRO エルサルバドル奉仕協会



おりがみ

日本から派遣されている柴田暁央(オリーブジャパンスタッフ)が、子どもたちに日本の工作「おりがみ」を教えてくださいました。一枚の紙が、いろいろな形になる喜びを子どもたちは体感しました。今では保育所のブームになっています。



ドウエニャス市場 (サンタ・テクラ市)

日曜日の朝、サンタ・テクラ市にあるドウエニャス市場は、買い物に出かける市民でにぎわいます。その一角で、FUNDIPRO の学生が、親が市場で働いている子どもたちと一緒に過ごす場所があります。そこで学生と子どもはいろんな遊びをします。ここには保育所がありませんが、毎週日曜のこの場を子どもたちは楽しみにしています。

グアテマラ

首都グアテマラシティでは、毎週日曜日にラ・コスティトゥシオン広場に、テントを張り、市場で働く人々の子どもたちと、遊んだり、工作をしたり、本の読み聞かせなどをしています。



ホンジュラス

首都テグシガルパでは、毎週土曜日にロスドロレス広場の市場にいる子どもたちと時間を過ごしています。初めは、広場で一緒に遊ぶだけでしたが、今では子どもたちも少しずつ成長し、一緒に絵本を読んだり、工作をしたりしています。



現地の NGO づくりー将来と展望 その2

ジョヴァンニ・リヴァ

(先進国の NGO は、情報、開発協力、緊急援助、現場派遣するスタッフの選択と育成、プロジェクト立案の5つがあり、特に最後の3つの経済は重要なポイントである。) 前号より

資金を集めるための一つの方法は、その団体の想像力から生まれる活動(バザー、催しの開催、講座の開講、販売活動など)です。または会員制度を設けます。少しずつ活動を広げていながら活動を支える人たちが増えてきます。寄付を募ることも一つの方法です。

さらに財団など企業からの助成の補助を受けたりします。ある国では国際交流団体等への寄付により、企業などに対する免税の制度(支払わなくてはならない税金から寄付金分を差引)がとられています。従って、それを有効的に使うことも一つの方法です。

また世界銀行からの助成があります。しかしこれを受けるためには、実績を持った有名な団体でなければならぬので非常に難しいですが、試みとして挑戦してみるのも良いと思います。

ヨーロッパでは、GNP の内の何割かは開発途上国の援助活動のために割り当てられています。その中の一部分は政府が直接に使用し、残りの部分は企業を通して開発国の援助のために使われます(例、ダム建設など)。また NGO の活動にも資金は配分されます。しかし、政府から資金を受けると非常に大きなリスク(危険)が生じます。やはり自由に使える資金を受けた方がよいでしょう。なぜなら、どの国の政府でも資金を出す場合、まずその資金の配分先と政府とがどのような関係にあるのかを考えます。政治的な問題が介入してくるのです。政府によって行われる援助活動には経済的な目的があります。それも開発国の経済発展ではなく自国の経済活動です。政府は決して無償でその国を援助するわけではありません。何か目的があるから資金を出します。従って、その国において無償に活動する私たちとは理念が異なるため摩擦が起こります。

もう一つの大切なポイントは活動評価です。資金の用途を明確にしなくてはなりません。これを行わないと再び資金を受けることが難しくなるので、会計報告と活動の結果を公表することが重要です。ですから、これらの活動のために専従の職員が最低1名は必要になり、採用が考えられるべきです。その他にはボランティアの人々からの協力を得ます。

ここで明確にすることは資金を集める時、そのお金がすべて海外のプロジェクトへ送られるわけではないということです。つまり、現場ではないここで活動するために資金が必要なのです。事務所の管理費としてどれくらいの額を必要とし、現場にはいくら送るかを明らかにしなくてはなりません。会計の規約の中には、プロジェクトが始まる前に行われる現地調査の渡航費、滞在費も経費の中に含まれています。立案の際に必ずそのような経費の面においても十分考えられるべきです。調査、ボランティアの養成に必要とされる費用、実際に現場で行われるプロジェクトに係る資金もすべて含まれます。さらに詳しく言うと、そのプロジェクトが施設などの建設に関してのものであれば建築費用、作業道具、室内の家具の購入などすべての経費、またはスタッフの給料、海外事務所の光熱費なども会計報告に加えられます。弁護士、会計士などへの依頼に関する費用も含まれます。

そして、前もってその国の為替相場を考えておきます。例えば事業を計画した年度と実際に事業を行った年との間に為替の大きな変動が起こると、資金が不足して計画は止まってしまいます。どのくらいの変動が生じるか、過去の数値と照らし合わせて調査することが必要です。例えば、一年前(1993年)ヴェネズエラでは1ドル=30ボリバルでしたが、今年(1994年)は180ボリバルです。

また、そのような国では何が起こるか予測できないため、あらかじめ高めに収支の見積もりを立てておくことが望まれます。突然の理由の不明な罰金や、お金を出さないと必要な書類が手に入らないケース、また苦勞して高価な機材を購入してもオフィスに入れてすぐに泥棒に入られて盗まれてしまうこともあるからです。これらすべてのことは起こる可能性が大いにあります。

(1994年11月26日講演) 次号に続く

ジョヴァンニ・リヴァは「友情こそが真の平和を作る」という理念のもと、祈り、教育、働きについて絶えず若者に教えました。オリーブジャパンと各国のカウンターパートの活動はその教えを礎としています。

イタリア語講座が始まります！

4月7日・8日チャリティーショップ開催！

学んでチャリティー！2018年春開校！！

初級イタリア語講座



講師：ピエトロ・ヴェツキ
ローマ市サピエンツァ大学建築学科卒。
建築士。日本建築を学ぶため2018年来日。

毎月第1・2・4水曜日
19～20時 本山生協会館ルーム1
受講費：5000円/月

収益金はエルサルバドルにあるみづばち保育所の教育支援金として使われます。
主催：オリブジャパン国際開発協力協会 問い合わせ：030-4306-1057

エルサルバドルの子どもたちのための
OLIVE JAPAN CHARITY SHOP
チャリティーショップ



4月7日(土) 11:00-17:00
4月8日(日) 10:00-15:00

CAZAN珈琲店 本店横(旧タツミ)
名古屋市昭和区台町2-19



収益金は全て中米エルサルバドルのみづばち保育所の教育支援に使われます。
主催：オリブジャパン国際開発協力協会 問い合わせ：030-4306-1057(担当：竹中)

4月4日開講。随時受講可能

みなさまのご来場をお待ちしています

講座・チャリティーショップの収益金はすべて、カウンターパートの中心であるイタリアのI.S.I(見捨てられた児童の会)を通して、中米の貧困に苦しむ子どもと若者の教育支援事業に充てられます。



エルサルバドルに来て約4ヶ月が経過し、こちらの生活にも慣れてきました。最近では大学の日本語クラスの手伝いをする事もあります。いろいろな活動の中、現地での友達も増えてきました。また子ども達ともかなり仲良くなりました。驚い事もあります。私の体調が少し悪い時に、子ども達の中でもかなりわんぱくな子がすぐ私の体調に気づき声をかけて来ました。隠しているつもりだったのですが彼は私の事をよく見ていたようです。とても驚いたのと同時に、嬉しい気持ちになりました。私も、子ども達の事をより一層よく見るようになりました。

(柴田睦央)

エルサルバドル便り

会員募集

オリブジャパンの活動に賛同していただける
会員の方を随時募集しています

- ・賛助会員 (一ヶ月一口 10,000円)
- ・正会員 (一ヶ月一口 5,000円)
- ・協力会員 (一ヶ月一口 2,000円)
- ・参加会員 (一ヶ月一口 1,000円)
- ・同調会員 (一ヶ月一口 500円)

振替口座番号

00890-1-24582

会員の皆様には、会報「オリブ・プレス」と
講演会、バザー等のご案内を
優先的にさせていただきます。

郵便振込用紙に必要な事項と会員の種類、
納入方法(月払い/年一括)をご記入の上、
会費を納入ください。

*お問い合わせは、下記連絡先まで

オリブプレス Vol.23 2018年4月発行

オリブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com 編責：オリブプレス編集部